

題材【CASE 1…怪獣現る】

首脳会談のために、海外に赴いていた大統領のもとに、
随行していた秘書官が、青い顔をして近づいてきた。

「大統領、たいへんです。

ホワイトハウスで怪獣が暴れているそうです。

怪我人も、たくさんでている様子です」

「何ということだ。早く手を打ってくれ！」

「大統領、お言葉ですが、この事態を収束できるのは、

大統領ご自身しかありません。

すぐに、大統領のお言葉を伝えてください」

大統領は、大きく深呼吸をして、

落ち着いた声で話しはじめた。

【応募作品】

大統領は、おごそかな声で呼びかけた。

「我が息子よ、早く帰ってきなさい！」

その声は、地球で超大国といわれる国の官邸で暴れていた怪獣の脳内に響いた。

怪獣は、驚きと焦り、そしてわずかな嬉しさをにじませた声で、

「うん、パパ！」と答え、故郷星に戻った。

母星に戻った息子が、照れた表情で言った。

「パパ、やっと出張が終わったんだね」

父親は、地球で「怪獣星」と呼ばれる星の一国で、大統領を務めており、

海外で行われていた首脳会談に参加していたのだ。

大統領は、厳しい表情で言った。

「勝手に地球に行ってはダメだと言っただろ？」

あの星は野蛮な生物が住んでいて危険なんだ！」

そして、一転、やわらかい表情になって続けた。

「でも、もう大丈夫だ。子どもたちが、誤って地球に迷い込んでしまっ

て危害を加えられないように、あの星を滅亡させることになったよ。各国の首脳たちと決めたんだ」

「怪獣星」の各国が協定を結び、地球を攻撃する日が決まった。

地球滅亡の日も近い……。